



指月

SHIGETSU

修禪寺・寺報
第 53 号

発行所 (〒410-2416)
伊豆市 修善寺 964
福地山 修 禪 寺
電 話 (0558)72-0053
FAX (0558)72-9680

寺は文化財の宝庫

住職 吉 野 真 常

一昨年より修善寺資料館館長・学芸員でもある田中先生に、御忙しい中、週一度御来山戴き、修禪寺に伝わる墨跡・書物・陶器等：を調査し目録を作って戴いております。まだ全ての調査が終わった訳ではありませんが、これまでの新たな発見等を書いてみたいと思います。

《墨跡等の軸物》

一、源頼家公肖像画

普段着姿の頼家公です。文政八年秋（当寺二十九世佛母培苗老師代）に修復したと裏に書付がありました。傷みがひどく、カビ等もありましたので表装を改めました。

二、北条早雲肖像画

独鈷を持ち袈裟を掛けた早雲像です。明治十八年四月画と裏に書付があります。

三、歴代住職の最も古い書

二十一世・靈源妙派老師（天明元年・一七八一年没）の墨跡。この軸も表装の欠損劣化がひどい為、表装を改めました。他に歴代住職の書としては、二十七世・岱

峰陽雲老師。二十九世、佛母培苗老師。三十二世・大協義件老師。三十五世・光輪不明老師。三十七世・大潤宗潭老師。三十八世・浩潤球學老師。三十九世・天真絶三老師。四十世・瑞岳廉芳老師。四十一世・穆堂圓宗老師。四十二世・大全徳潤老師の墨跡が残っております。

いつか修禪寺歴代住職墨跡展を企画したいと思っています。

《古本》

一、『鳥の空音』 （そらね）

徳川綱吉の側用人として絶大な権力をふるった柳沢吉保の側室・飯塚染子（一六六五―一七〇五）が原作者。修禪寺蔵『鳥の空音』は鳥丸光胤（一七二三―一七八〇）が筆写したものと思われるとの事。そして、その『鳥の空音』に膨大な書き込みをして本文を推敲した人物は、おそらく慈雲尊者（一七一八―一八〇四）だろうと思われるとの事です。またこの『鳥の空音』は、女性の手による禅の思索書にとどまらず、日本文化の本質に迫る一級の資料だそうです。

只今、電気通信大学教授・島内先生の手でより詳しい調査がなされています。また后日書籍として出版されるとも聞いております。

《佛像》

一、院派の佛像と興福寺千体観音像の一体。

宝物館に常置されている観音坐像が室町時代の院派の仏師によって作られた事が分かりました。仏師には、大きく四つの系統があるそうです。院派・円派・慶派・善派です。伊豆では、慶派の佛像ばかりが知られてお



興福寺千体観音



不動明王立像

り、院派の作例はほとんど知られていなかったそうです。そんな訳で伊豆の彫刻史上、貴重な像なのです。

次は、これも常置の観音立像。平安時代の作。奈良興福寺にあった千体観音堂に納められていた一体。観音堂は、朽ち果て、数十体の観音立像が残されているとの事。その一体が修禅寺にありました。なぜ修禅寺に安置されていたのかは分かりません。

この二体の観音像は、上原仏教美術館学芸員、田島先生の調査で判明致しました。

二、聖観音坐像(檀信徒会館本尊)。不動明王像・毘沙門天立像・大黒天立像(通常弘法堂の脇に安置。)が、これら佛像を修復した、牧野先生により四体共、平安時代後期の作と判明致しました。只今特別に不動明王像を宝物館にて公開させて戴いております。

《建物》

一、山門がかたむき、修理が必要になっています。静岡県文化財保護審議会会長・建部先生に視ていただき、文化財として修理する予定です。そこで分かった事。

山門は、修禅寺の建物中一番古い建物。文久三年八月当寺三十一世台杲活門老師代、野田八良右衛門氏一寄進で作られた物です。

文久三年二月五日に大火災の為修禅寺の堂塔伽藍が悉く焼けてしまいました。火災の後片付け等あったにもかかわらず十月に山門が作られています。またなぜ、初めに本堂を再建しなかったのだろうと疑問がわいてきます。山門は、火災の前より作る計画があり、火災の時点ですでに材料等の切り出しもできていたのかもしれない。二、鐘楼堂は、大正四年三月七日に建てられたと判明しました。ちなみに本堂は、明治一八年十一月



陽雲禪師入定塔

と棟札にありました。

《放光庵跡》

一、放光庵跡の荒れ方がひどく、何とかしたいと思っておりました。昨年、修禅寺檀家梅原さん・山口さん・三須さん等の力を借り整備を致しました。その折、上原仏教美術館学芸員・田島先生に御助力を戴き、大変な事が分かりました。

放光庵には、当寺二十七世岱峰陽雲老師が入定した『陽雲大和尚入定窟』があり、その回りに沢山の石経塔と石佛があります。その石経塔の下には、これまたとんでもない数の石に書いたお経がうまっているのです。釈尊滅後、五十

六億七千万年後に弥勒仏が現れ、再び佛法を説くという思想があります。その時まで、紙や木に書いたお経では残りません。陽雲老師は、全てのお経を石に書いて埋めその時まで伝えようと考えたようです。まさにタイムカプセルのように。そしてその石経塔の上に石佛を置き、その石経塔と石佛を見守るように入定したようです。田島先生云く「伊豆半島内で、これだけの種類の石経塔がある場所は、見当たらない。これは、すごい！」ビックリしており



綺麗に整備された放光庵跡

ました。今、埋蔵文化財の申請をしております。

今後、まだまだいろいろな発見があると思います。修禅寺は、まさに文化財の宝庫。大きなタイムカプセルなのです。

観世音菩薩坐像 院派の貴重な作例

田島 整

弘法大師伝説と源範頼・頼家の悲劇に彩られた名刹、修禅寺は、伊豆の寺院で最も有名な寺といつて良いだろう。その境内に幼稚園があつたと教えて下さったのは、修禅寺護持会会長の田口行央さんと、護持会役員の原京さん。観光客が引きも切らず参拝に訪れる境内に、かつて園児の歓声が響いていたことを想像すると微笑ましい。今回ご紹介する観音菩薩坐像は、修禅寺幼稚園のご本尊。園児が「ののさま」と呼んで小さな手を合わせた御仏なのだという。

今年の7月17日、修禅寺住職・吉野真常師の調査依頼を受けて、せみしぐれに包まれた猛暑の修禅寺を訪ねた。宝物館で本像に直面。頭部が体に比べて過大で、ブロックを積んだような抑揚に乏しい体。奥行き薄い頭部に幅広のお顔。目尻が切れ上がった細長い瞳。うつむき加減で少し憂鬱そうな表情。一見してわかる典型的な室町時代の仏像だった。「このお姿、

あの仏像に似ている」と思う。似た仏像とは山梨・棲雲寺の宝冠釈迦如来坐像。年代や作者が確定している仏像との比較を通じて、新たに見出された仏像の年代や作者系統を導き出すのが、美術史の手法。比較すれば細かい年代や作者系統を確定できるかもしれないとも思う。そんなことを考えながら、修善寺郷土資料館の田中之博館長にお骨折りいただいて、展示ケースから仏像運び出した。棲雲寺像と似ているという直感が正しければ、「あの系統」の仏師の作かも知れない。それなら内部構造を見ればわかる。ところが底板があって、内部を見ることができない。

ご住職の許可をいただいて格闘すること30分あまり。ようやく底板が外れ、内部を見た私は、仏様に對して誠に失敬ながら「ビンゴだ!」と思わず口走ってしまった。

本像は頭から胴体までを前後二つの材を寄せて造る寄木造。両肩から下の左右の体側と、両脚、両手先を別に造って寄せている。

体の内部は浅く念入りにくり抜かれ、空洞になっている。これを内刳(うちく)といい、材の干割れ防止と像の軽量化のために行う手法。しかし、本像の場合、その内刳の様子が特異だった。体の中央に上から底ま



院派 観世音菩薩坐像

で棒を通したように一本の芯を彫り残している。また、体造っている前後二つの材をくり抜く際、それぞれ左右に支柱のような棒を二本削り残して、棒の先端同士をつないでいる。このような特殊な技法を用いるのはあの系統のみ。つまり、本像は院派仏師の作品だった。

仏像を作る仏師には、大きく四つの系統がある。いずれも十一世紀の偉大な大仏師、定朝の系譜をひくもので、院派・円派・慶派・善派という。それぞれの派の名前は、所属仏師の多くが名に付

ける一文字から取っており、例えば慶派には運慶や快慶、院派なら院朝、院尊などがいる。

この4派のうち、平安後期、宮廷貴族や上皇たちの造像を最も多く引き受けて隆盛を誇り、正統とされたのが院派だった。しかしその院派は、鎌倉時代に入ると慶派に押されて衰退する。実は従来、伊豆においては慶派の仏像ばかりが知られており、院派の作例はほとんど知られていなかった。本像はその院派の貴重な作例であり、伊豆の彫刻史上、貴重な像といえるだろう。その仏像が価値を知ら

れることもなく、園児を見守っておられたのだから愉快だと思う。現在本像は、修善寺宝物館で拝観することができ(年中無休。開館時間午前8時半～午後4時。料金大人300円、子ども200円)。実は宝物館が建っている場所は、かつて修善寺幼稚園の跡地。「ののさま」は昔と同じ場所であり、会いに来る人を出迎えてくれる。(上原仏教美術館学芸員・下田市文化財保護審議会委員・伊東市文化財審議会委員会委員)

桂谷八十八ヶ所巡拝

伊豆市観光協会修善寺支部
事務局長 小暮 力睦

今年も多くのお遍路さんが修善寺にやってきました。

三日間とも好天に恵まれ、さわやかな秋空の下で巡礼できました。観光協会では巡礼者が修善寺を発する時に参加人数をカウントしています。今年には僧侶やスタッフを含めて一日目が二百五十名、二日目が二百二十名、三日目が二百九十名、三日間の合計は七百六十名でした。

平成十六年に台風が上陸して住

民の皆さんが被害を受けた為、やむを得ず中止にした後は毎年ほぼ同様の参加人数に落ち着いていきます。

十年前には一日で七百名もの参加者がいたこともありますが、各班の警備は充分な対応ができていなかったと思われます。

現在は一つの班が百から百五十名で構成されており、旅館関係者の警備協力も加わり、スタッフ数が増加して安全性は高まっています。

但し七日の昼食場所で、カーブがかかる道路の横断箇所では車が近づいている状況で一人が横断すると、つられて他のお遍路さんも横断してしまうために大変危険です。

私はメガホンを片手に横断指示を呼びかけていましたが、この箇所の警備が毎年一番の気がかりになっています。

また、奥の院の数百メートル手前にスズメバチの巣があり、業者に撤去を依頼しましたが出張中で対応してもらえませんでしたので、自分でハチの巣を撤去しました。初めての体験でしたが、刺されずに無事撤去できて良かったです。



同行二人

地域の皆さんが事前に歩道や石碑周辺を綺麗に整備して巡礼しやすい環境を整え、我々の警備も行き届き、三日間事故やけが人も無くほっとしています。

各礼所では地域の皆さんが休憩や昼食時に飲物や食べ物を接待下さり、お遍路さんが大変感謝していました。

お遍路さんをはじめ、お接待や事前の清掃等で桂谷八十八ヶ所巡礼に係わった皆様にご利益がありますようお願いいたします。

なお、昭和5年から続くこの行事は現在八十三年が経過し、あと十七年ほどで開眼から百周年を迎えると思いますので、記念事業を行なうてほしいと思います。

暖かい温泉が湧く修善寺温泉で、あたたかいおもてなし溢れる桂谷八十八ヶ所巡礼がいつまでも続くことを願っています。



庭園特別公開

○当山境内裏手にある庭園「東海第一園」が護持会主催で十一月二十二日から十二月二日まで特別公開されました。毎年好評であったことから今年も四回目となる公開をすることになりました。紅葉の観光シーズンと重なり期間中は約2万人超の来園者で大混雑でありました。訪れた多くの観光客が庭園を散策しながら深まる秋を楽しんでいました。

平成二十四年 来訪者

- *一月二十三日 茨城県第三教区様 拝観
- *二月五日 伊豆市交流協会様 参禅
- *二月十三日 中伊豆中学校PTA様 拝観
- *二月二十一日 静岡県第三宗務所第十七教区様 拝観
- *三月二十六日 藤枝市議員OB会様 拝観
- *四月十七日 禅遊会様 拝観
- *四月二十七日 ラフォーレ修善寺様 参禅
- *四月二十九～三十日 修善寺手づくり市 開催
- *五月一日 修善寺南小学校様 拝観
- *五月十日 清水町老人会様 拝観
- *五月十一日 修善寺小学校三年生様 拝観
- *五月二十二日 葦山中学校様 拝観
- *五月二十七日 三島市高嶋社中様 お抹茶接待
- *五月三十一日 福井県第三教区黙陽会様 拝観
- *六月十一日 福井県梅花講様 拝観
- *六月十二日 大平老人クラブ様 拝観
- *六月十三日 赤十字賛助奉仕団様 拝観
- *六月十三日 俳句の会様 拝観
- *六月二十二日 あけぼの会様 拝観
- *六月二十二日 春風会様 参禅

***六月二十九日**
駒沢大学昭和四十年同窓会様
拝観

***六月五〜七日**

桂谷子供会様 通学合宿

***七月二十八〜二十九日**

修善寺スピリッツ様 合宿

***八月二十八日**

大本山永平寺同安居会様 拝観

***九月六日**

葦山高岩寺様 拝観

***九月十日**

立正大学様 拝観

トラ・ウ会様 拝観

***九月十一日**

参禅道場の会様 拝観

***九月十三日**

アルカナイズ様 拝観

***九月二十八日**

茨城県新福寺様 拝観

***十月十六日**

臨済宗伊豆八十八ヶ所巡拝団様
拝観

拝観

***十月十九日**

山梨県第十三教区様 拝観

***十月二十六日**

千葉県長全寺様 拝観

***十月二十七〜二十八日**

修善寺手づくり市 開催

***十一月三十日**

教職員互助会浜松支部様 拝観

御 寄 附

○放光庵

門柱一対・外周手すり一式

―北又 野村廣志様―

○八十八箇所巡拝草鞋マスケット

―小坂 三須定雄様―

○八十八箇所巡拝草鞋マスケット

―南町 鈴木容子様―

○八十八箇所巡拝草鞋マスケット

―牧之郷 山口惣一郎様―

○竹ぼうき 十本

―中里 三須章吾様―

○竹ぼうき 十本

―柏久保 杉村英明様―

○ぞうきん 三十枚

―湯舟 飯田敏彦様―

御懇志ありがとうございました

歳末たすけあい托鉢御報告

○十二月六日に毎年恒例の歳末たすけあい托鉢(たくはつ)が行われました。昨年同様、今年も皆さまから温かい浄財をご喜捨いただきました。

十二月六日

―温泉場・駅前―

浄財 十九万 八八八円

○皆さまからご喜捨戴きました浄財は、伊豆市社会福祉協議会に寄付させて戴きました。

あたたかいお志し誠にありがとうございました。
合掌

東日本大震災義援金御報告

平成二十三年三月〜

平成二十四年十二月十五日現在

義援金合計 九十五万七千八百六十八円

○皆さまからの義援金は、日本赤十字社はじめ各復旧復興支援団体に寄付させて頂きました。

○義援金受付箱はお守り売店前にございます。

あたたかいお志し誠にありがとうございました。今後とも息の長いご支援の程よろしくお願い申し上げます。
合掌

平成二十五年度 年回表

年回	寂年号
一周忌	平成二十四年
三回忌	平成二十三年
七回忌	平成十九年
十三回忌	平成十三年
十七回忌	平成九年
二十三回忌	平成三年
二十五回忌	昭和元年
二十七回忌	昭和六十二年
三十三回忌	昭和五十六年
三十七回忌	昭和五十二年
四十三回忌	昭和四十六年
四十七回忌	昭和四十二年
五十回忌	昭和三十九年

◎法事のお申し込みは、できましたら、一〜二カ月前にはお願いいたします

火曜坐禅会

八月〜十二月十八日まで

参加者数 延べ 四〇五名

花まつり法要と
パントマイム公演
のお知らせ

◎四月七日(日)にお釈迦さまの誕生をお祝いする法要「花まつり」が行われます。(正當は八日です)法要後には記念公演としまして、修善寺出身・山田とうし氏によりますパントマイム公演が予定されております!

四月七日(日)

十時法要〜

終わって公演

ぜひお誘いあわせのうえ
ご来山ください。